

ポラスマンション事業を強化

春日部駅前で再開発

事業協力者に選定 商業複合300戸超

ポラスグループの中央住宅は、分譲マンション事業を強化している。2×4工法による戸建分譲を担当するマインドスクエア事業部にマンションディヴィジョンを新設してマンション事業を昨春に移管。秋には、春日部市中央一丁目地区の再開発準備組合の事業協力者に準大手ゼネコンのフジタとともに選定された。

を「再開発等を促進するエリア」に位置付けており、都市機能を戦略的に集積させる方針だ。

中央住宅では「春日部エリアで数多く住宅を供給してきた実績が評価されたのではないか。この再開発を成功させ、各地での再開発にも参入することでマンション事業を強化したい。マンション建て替えや戸建てとの複合開発への取り組みも強めていく」と話す。

同社では「他社との共同事業や戸建てとの複合開発、マンション建て替

え事業への参画など多彩なマンション事業を展開。数年間でマンション事業を100億円規模に倍増する」（金児正治取締役事業部長）方針だ。

再開発は、東武スカイツリーラインほか春日部駅西口の駅前、約2万500平方メートルが対象。地元有志らがまちづくり協議会を設けて、地区整備の方向を検討していた。昨春には、準備組合が発足した。

現時点では店舗と業務施設、共同住宅（約300戸）のほか、公益施設、駐車場など延べ約15万平方メートルを想定している。

今後、中央住宅はフジタとともに、地権者の要望を聞きながら具体的な

計画立案や合意形成などを支援する。

15年度中の都市計画決定、16年度の組合設立、事業認可を目指す。順調に進めば18年度に着工、21年度竣工のスケジュールとなる。

春日部市は、春日部駅

付近の東武スカイツリー

ラインと野田線の連続立体交差事業を計画。埼玉県や東武鉄道との協議を進めている。連続立体交差事業と連動した中心市街地まちづくり計画では、中央一丁目地区再開発を含む駅周辺の約20分